

## R6 東海総体連絡

### 1 競技方法について

- (1) (公財)全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則・細則」、「東海中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項」、及び「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」に従って行う。
- (2) 個人戦  
男女ともトーナメント法にて行う。  
試合時間は3分3本勝負で行い、勝敗の決しない場合は延長戦を行い勝敗を決する。
- (3) 団体戦  
男女ともリーグ戦を行い、上位2校で決勝トーナメントを行う。  
試合時間は3分3本勝負で行い、勝敗の決しない場合は引き分けとする。  
リーグ戦における順位は①チームの勝数(引き分けの場合は0.5勝)、②勝者数、③取得本数によって決定す  
チームの勝敗が決しないときは、3分1本勝負で任意の代表者による代表者戦を行う。(延長戦あり)
- (4) 団体戦の代表者戦、個人戦での延長戦について  
○延長戦は、2分ずつ区切って行う。  
・試合時間3分⇒延長2分⇒延長2分⇒【小休止(深呼吸をする程度)】  
⇒延長2分⇒延長2分⇒【休憩(面を外して給水)】  
※上記を繰り返す  
【小休止】⇒開始戦の位置で10秒程度の深呼吸  
【休憩】⇒立ったまま納刀し、待機場所に戻って面を外し、所定の場所で水分補給を行う。  
試合再開までの時間は、5分とする。  
〈審判員の所作〉  
【小休止】審判員は試合者に「その場で深呼吸しましょう」と促す。  
【休憩】左手に審判気を持ち、右手を右斜め下方に伸ばし、手の平を下に向け「休憩」と宣告する。
- (5) 転倒した場合や選手に異変を感じた場合などにおいて、その後の試合の続行が不可能であると判断した場合、本人・保護者・引率代表者の続行意志に関わらず、審判長・大会委員長・医療関係者との協議により、主催者が「中止」を申し渡すこととする。
- (6) 監督の服装は、白色(無地)半袖のワイシャツ、グレー(無地)ズボンまたはスカート、エンジ色のネクタイ、紺色(無地)の靴下とする。
- (7) その他、試合運営上の諸問題については、各県専門委員で合議のうえ、決定する。

### 2 試合上の注意とお願い

- (1) 開場時間及び開会式について  
開場時間は、9日(金)10日(土)両日ともに「8時30分」です。  
開会式(11時)には、団体出場校も参加してください(整列順は当日配布のプログラムを参照)。
- (2) 会場の使用、入場について  
本大会は有観客にて実施します。  
ただし、1Fフロアへの入場はIDカードの着用(役員証、選手証、監督証)が必要です。
- (3) 靴は、各校で保管してください。生徒は、体育館の下駄箱を使用せず靴袋にまとめるようにお願いします。  
また紛失の責任は負えません。チームでの管理や自己管理をよろしくお願いいたします。
- (4) 更衣室は「別紙:会場図」をご覧ください。
- (5) 「剣道場」は、アップ会場として使用できます(検量の場にもなります)。
- (6) 観客席について  
観客席は、「別紙:会場図」をご覧ください。各県で席を割り振ります。  
観戦は、座席に着席してお願いします。観客席の場所取りは行わないでください。  
また観客席やロビー等にシートを敷いて場所を取ることもおやめください。  
1日目に防具等を観客席に置いていても構いませんが、紛失等の責任は負いかねます。
- (7) 個人戦に出場する選手の稽古相手について  
個人戦において、1つの学校から1名のみ参加の場合は、稽古相手の参加(1Fフロア入場)を認めます。  
また女子1名や男子1名の場合もそれぞれに1名ずつの練習相手を認めます。  
その際、稽古相手に対してのIDカードの発行は行わず、アップ時間のみ1Fフロアに入場してください。
- (8) 竹刀検量の場所及び竹刀検量に関するお願い  
竹刀検量は「剣道場」で行います。中学校ごとにまとめて検量(1人3本まで)を行うようにしてください。  
竹刀検量の際は、竹刀の取り間違いを防ぐため、柄の部分に、『学校名・生徒氏名』を記入してください。  
今年度の検量印(シール)は、男子は『青色』、女子は『赤色』とします。  
剣道場については、IDカードがない生徒も入場(移動)できます。
- (9) その他  
※全国中体連剣道部、東海中体連剣道部の申し合わせ事項および重点指導事項に準じます。

### 3 東海中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項

#### (全国大会申し合わせ事項に準ずる)

##### 【剣道試合・審判規則に関わる事項】

- 1 サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用について〈届け出用紙を試合場主任へ提出する〉
  - (1) 医療上必要と認める場合に限り使用を認める。使用する場合は届け出た上で、使用する。
  - (2) サポーターなどは、肘や膝などにつける物を足につけたり、ゴムや革及び滑り止めに底に貼った物等の使用は禁止する。（相手に危害・公正さの観点から）
  - (3) 指先単独でのテーピングは届け出は不要とする。
- 2 面
  - (1) 面金を黒色にした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。
  - (2) 面紐は結び目より40cm以内、小手紐は長くたれさがらないように結ぶ。
- 3 竹 刀
  - (1) 竹刀は長さが男女とも114cm（約3尺7寸）以内、重さは男子が440g以上、女子は400g以上とする。
  - (2) 安全のため竹刀の先端部最小直径が、男子25mm以上、女子24mm以上とし、ちくとう最小直径を男子20mm以上、女子19mm以上とする。
  - (3) 不正な竹刀を使用した競技者は、発見された時点で相手に2本を与え、その試合の既得権は認められない。また、その選手は以後の試合を継続することができない。原則としてこの処遇は前の試合にさかのぼらない。リーグ戦においては未消化の試合を2本負けとする。決勝トーナメントにおいては、補員の補充を認める。
  - (4) 不正竹刀とは、「ビニールテープなどを巻いた物」「異物を混入した物」「検印のない物」を指す。検査に合格し検印のあるものを使用する。
- 4 公正を害する行為
  - (1) 「変形な構え等の防御姿勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、「反則」とする。
- 5 突き技・上段・片手打ち
  - (1) 突き技は禁止とする。上段は原則としてとらせない。片手打ちは有効打突としない。（隻腕についてはその都度協議する）

##### 【試合運営に関わる事項】

- 1 試合者要領
  - (1) 団体戦では、先鋒戦及び最後の試合者の対戦の場合、監督、選手ともに正座する。個人戦においての監督も同じとする。
  - (2) 整列は審判員側に先鋒が並び、互いに9歩の間合いを保ち立礼する。先鋒・次鋒は面・小手をつけ、竹刀を持って整列する。
  - (3) 正面に対する礼は、最初と最後の試合のみで行う。最初（第一試合）は正面に礼をさせ、次に互いの礼をさせる。なお、決勝戦については初めと終わりに正面に対し、礼をする。
  - (4) 審判合議のとき、競技者を立ったまま納刀させ、境界線近くまでさがり、蹲踞または正座して待つ。
  - (5) 膝の故障などで片膝で蹲踞をする場合、監督会議で連絡する。  
※審判長と審判主任は、監督会議に参加し、各会場で周知をする
  - (6) 試合をする学校および待機する学校の控え席（競技場内）は、選手、監督1名のみとする。
- 2 選手の変更について
  - (1) 選手変更については、監督が指定用紙に必要事項を記入し、各試合会場の審判主任に申し出る。（再出場はできない。）
  - (2) 参加申し込み以降に、けが・病気などにより出場できない選手・補員が生じた場合には、その選手の登録を抹消し、新たに補員の補充をすることができる。審判・監督会議にて確認をすること。
  - (3) 選手の変更は補員からとする。
- 3 華美への配慮
  - (1) 校名・校章等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。
  - (2) 乳革は大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
  - (3) 柄革は、滑り止め（ゴム等）や模様等がない無地のもので、白色とする。
  - (4) 鍔については、革色（白も可。ただし、透明は不可）のものを使用する。それ以外のものを使用している場合、直ちに取り替えるものとする。
- 4 その他
  - (1) 選手交替の際の、よけいな動作（胴つき・握手など）は禁止とする。
  - (2) 選手・監督のサイン・声援は禁止する。応援は拍手のみとする。
  - (3) 競技場内へのストップウォッチ、ビデオなどの電子機器の持ち込み、及び時間を計る行為は禁ずる。
  - (4) 試合者の目印については、各校で用意する。  
名札は黒または紺地に白字とし、学校名・クラブ名（〇〇中・〇〇クラブ）・氏名を明記したものを使用する。また、同姓の選手がいるときは、名前の頭文字を書く。
  - (5) アイガード・ポリカーボネット面、カーボン竹刀の使用は認める。